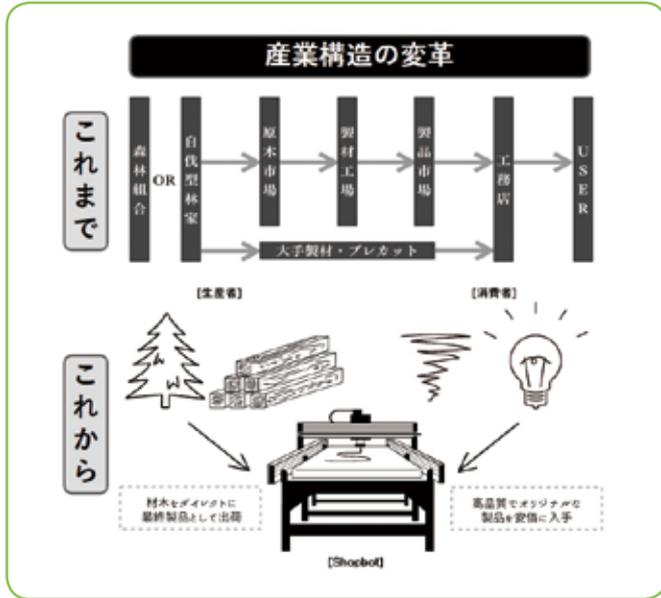


VUILDの挑戦

ウッドデザイン賞2018優秀賞受賞企業 その後の取組



～デジタルファブリケーションによる自律分散型生産ネットワークの構築から、
地域の素材で、家具や建築物を自分でつくることができる「活き生きとした暮らし」をつくる～



▲ Shopbot で生産者と消費者を直接つなぐ



▲ デジタルファブリケーション機器「Shopbot」



◀ Shopbot を用いて製作した仮設橋

「Shopbot は、板材の加工が得意で、3次元加工も可能なコンピューター数値制御の木工切削機。ほとんどの種類のCADデータを読み込むことができ、素人でも簡単に加工コードをつくる事のできるオープンマインドな機械です。今、工務店や製材所などの事業者や地方自治体、大学など35箇所納入しており(2019年2月時点)、自社のプロダクトを開発して製作したり、オーダーのあった家具や看板を作るといったかたちで各地で活用されています。今までなかった、作り手と買い手の結びつきや、地域内での新しい繋がりをつくることができるよう可能性があると考え、機械を入れて下さる事業者の方が多いです。」と、井上達哉さん。また、秋吉浩気さんは、「例えば若手県花巻市の小友木材店では、Shopbot導入時の研修を受けてくれた女の子が期間内に家具を作り、その後Shopbotにのめり込み、そのまま就職するということがありました。このように、ものづくりに興味

アイディアなどをデジタルデータ化し、それを工作機械で読み込んで造形する「デジタルファブリケーション」。

VUILD(ヴァイルド)では、デジタルファブリケーション機器の一つであるCNC加工機「Shopbot(シヨップボット)」を全国に普及し、中山間地域が機械を手にする事で、地域の木材を用い、最小限の輸送距離で、高品質で付加価値の高い製品を自分たちの力で作れるようになる仕組みづくりに取り組んでいます。

この取組がウッドデザイン賞2018で、ソーシャルデザイン部門、コミュニケーション分野で優秀賞に選ばれました。

「EMARF」の開発

「EMARF」は、板材の加工が得意で、3次元加工も可能なコンピューター数値制御の木工切削機。ほとんどの種類のCADデータを読み込むことができ、素人でも簡単に加工コードをつくる事のできるオープンマインドな機械です。今、工務店や製材所などの事業者や地方自治体、大学など35箇所納入しており(2019年2月時点)、自社のプロダクトを開発して製作したり、オーダーのあった家具や看板を作るといったかたちで各地で活用されています。今までなかった、作り手と買い手の結びつきや、地域内での新しい繋がりをつくることができるよう可能性があると考え、機械を入れて下さる事業者の方が多いです。」と、井上達哉さん。また、秋吉浩気さんは、「例えば若手県花巻市の小友木材店では、Shopbot導入時の研修を受けてくれた女の子が期間内に家具を作り、その後Shopbotにのめり込み、そのまま就職するということがありました。このように、ものづくりに興味

のなかった人が機械と共にやってきて、ものづくりを始めて、その人の自己実現にもつながり、会社にも役に立っているというような良い循環が生まれています。また、ビジネスを生み出すといった一面だけでなく、子ども向けのワークショップなどを開くことにより、教育的な側面でも貢献できたりもしているのではないかと思います。」と話してくれました。

昨年、渋谷区にある京王電鉄 笹塚駅前の広場のリニューアルにおいては、地元の方々と共同製作ワークショップを行い、多摩産材を用いたオリジナルの木製ベンチづくりに取り組んでいます。

「EMARF」の開発

ウッドデザイン賞を受賞した取組を、さらに発展させたものが2018年11月にβ版がリリースされた「EMARF(エマーフ)」です。「EMARF」はウェブ上のアプリケーションを通じて、ユーザーが家具等に使う木材の産地や、デザインを選べ、ニーズに合わせたサイズにカスタマイズできる設計システム。デザイナーは家具のデザインテンプレートを自由に投稿することができ、またユーザーは自由に家具を設計し、各地のShopbotを持つ事業者においてオンデマンドで出力・加工することができます。家具の仕上げ、組立てはユーザーが自分達の手で行います。

「EMARFを作ったのは、専門性の高い人を雇って育てるとか、商品開発のためにデザイナーに外部委託するなど、機械を入れたあと実際商品を作るまでの人材や技術の獲得などが大変で、そういうものを無くしたいと思ったから。商品に

VUILD (ヴィルド) 株式会社

(2017年創業 神奈川県川崎市)

<https://vuild.co.jp/>

<https://emarf.co/>



お話を伺いしたのは



代表取締役 / CEO / アーキテクト
秋吉 浩気さん



取締役 / COO / 林業プロデューサー
井上 達哉さん



▲浜松市の蛸塚一丁目バス停



独自の設計システムを使い デジタル加工機 Shopbot を iPad 等で容易にデザイン 用いてオリジナル家具を出力

オリジナル家具や建築の
キットが組み立てられ完成

完成した家具

▲オーダーメイド家具をオンデマンドで出力できる自律分散型地域生産プラットフォーム「EMARF」

また、最近の事例として、ナイス(株)とのコラボレーションで、2019年2月に静岡県浜松市の蛸塚一丁目バス停の製作を行いました。

「地元浜松の製材所から天竜材を調達し、その材幅でできるものを設計しました。Shopbotを納入している隣の愛知県豊川市の工務店で2〜3日で木材の切削・加工を行い、豊川市と浜松市在住の大工さんに協力いただき約1日で組み立てを行うなど短期間で施工ができました。今後EMARFがリリースされれば、各地の小さなコミュニティの中で、現地のShopbotと木材を用い、地域の人々と地域のニーズに合わせたものづくりを、すぐに行うことが可能になります。各地でこのような取組が増えたいと思います。」

現地のShopbotと地域の材で、 「浜松蛸塚のバス停」の事例

求められるデザインや機能的な価値、クオリティをEMARFがサポートしていければと考えています。自分たちの地域の材料に、EMARFを使って付加価値をつけて、仕事にするということができれば、ものづくりにおける、資源・場所などリソースのある地方と人が集まる都市というような、地方と都市の分断の構図はなくなり、自分たちの地域でできる自律分散型のものづくりの仕組みができるのではないかと思います。」β版の仕様やデザインテンプレート、出力拠点数などを更にアップデートする形で、4月頭に正式版「EMARF」をリリースする予定です。

今後、取り組んでいきたいこと

「今、価値のあるプロダクトは何かと考えたときに、垣根を越えて協働でものづくりを行うとか、そういう価値観にシフトしていくのではないかと感じています。VUILDは技術はもちろん、コミュニケーションの手段として「EMARF」のような開発を行っています。産地に足を運ぶとか、木や林業のことを知ってもらおうとか、関わってくる職人さんなど作り手の方々と一緒に、どういう風に新しい価値をユーザーと共に作っていくかということにチャレンジしたいと考えています。それぞれの地域の人々が主役になれるような仕組みをVUILDとして作って、価値を提供したいと考えています。」



▲蛸塚一丁目バス停 施行の様子